金　日　成

全民族が団結して祖国の統一を促進しよう

全世界の勤労者団結せよ！

金　日　成

全民族が団結して祖国の統一を促進しよう

汎民族大会に参加した代表におこなった演説

1990 年 8 月 18 日

わたしはきょう、海外の各地域から祖国統一の熱望をいだいて祖国を訪問し、汎民族大会に参加した代表のみなさんと会えたことを非常にうれしく思います。

みなさんは、海外で民族の悲願である祖国統一偉業の実現をめざして献身してきた愛国者です。みなさんは今回、祖国の平和と統一のための汎民族大会を板門店（パンムンジョム）で開催するため多大の努力を傾け、また汎民族大会が成功裏に進められるよう積極的に努力しました。

わたしは、代表のみなさんの共同の努力によって汎民族大会が成功裏におこなわれたことを熱烈にお祝いします。

祖国統一の希望をいだかせる1990年代の初年に開かれたこのたびの汎民族大会は、1948年の南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席会議とともに、祖国統一をめざす朝鮮人民の闘争史に特記すべき歴史的な会合でした。

このたび北と南、海外の同胞が、思想と理念、政見と信教の違いを越えて一堂に会し、祖国統一を促進する方途と共同の闘争対策を討議したのは、民族分裂史上はじめてのきわめて意義深いことです。世界の進歩的人民の大きな関心のもとに開かれた汎民族大会は、分かちがたい一つの民族として、統一された一つの祖国で暮らそうという朝鮮民族の統一への熱望と、くじくことのできない統一意志を明白に示しました。

このたびの汎民族大会には、南側からは南側推進本部代表として1名が参加しましたが、北と海外からは祖国の自主的平和統一の

ためにたたかう各統一運動団体の代表と人士が多数参加しました。このたびの大会に参加した代表のなかには女性も約200人いるとのことですが、これは非常に好ましいことです。

汎民族大会で、代表のみなさんは祖国統一を促進する決意をかため、りっぱな文書を採択しました。大会の前後に開催されたさまざまな行事もすべてりっぱにおこなわれました。このたび、南側は大会に計画どおり代表を送ることができませんでしたが、放送を通じて汎民族大会のニュースを聴取し、大会の精神に積極的に呼応しました。これもやはりすばらしいことだと思います。

全般的にみて、このたびの汎民族大会は全同胞の統一念願と期待にこたえて開催され、大会がおさめた成果はじつに大なるものがあります。わたしはこれを非常に満足に思っています。

みなさんが汎民族大会でひとしく決意したとおり、われわれは1990年代に必ず祖国統一の歴史的偉業を成就しなければなりません。

民族分裂の悲劇を終わらせ祖国を統一することは、こんにち全朝鮮民族のもっともさし迫った課題となっています。

朝鮮民族は歴史的に一つの国土で固有な文化と歴史を創造し、むつまじく暮らしてきた単一民族です。朝鮮民族は外部勢力によって人為的に分裂させられ、外部勢力の妨害策動によってこんにちまで統一を達成できずにいます。民族の分裂は、北と南、海外に住むすべての同胞にはかりしれない不幸と苦痛をもたらしているのみでなく、民族の統一的発展と祖国の隆盛発展を阻む根本的な障害となっています。現代は自主の時代であり、分裂した諸民族はすべて統一を実現する方向に進んでいます。このような時期

に、朝鮮民族がいつまでも別れ別れに暮らさなければならないいかなる理由も条件もありません。われわれは民族分裂の悲劇をこれ以上持続させてはならず、一日も早く祖国統一偉業を成就しなければなりません。

祖国の統一は全朝鮮民族の一致した熱望です。

いま北と南、海外の同胞のあいだで、祖国統一の気運はかつてなく高まっています。昨年、南朝鮮の「全大協」代表の林秀卿（リム スギョン）が死線を越えて平壌（ピョンヤン）を訪問しましたが、これは朝鮮人民の統一への熱望がいかに高いものであるかを全世界に如実に示しました。林秀卿は、平壌に来るときは分断の障壁のため遠回りして来ましたが、帰るときは自分の属する組織の決定により決死の覚悟で板門店を通過しました。彼女は年少の女学生ですが、じつにりっぱなことをしました。それでわたしは彼女の愛国的壮挙を高く評価し、彼女を統一の花、朝鮮の娘と呼びました。

祖国統一をめざすわれわれの闘争はもちろん困難な闘争であり、朝鮮民族の統一念願が容易に達成されるものと期待することはできません。

わが国の統一を妨げる勢力はまだ少なくありません。

朝鮮の統一を妨げる主な勢力はアメリカです。

アメリカは武力で南朝鮮を占領し、主人づらをしています。かれらは南朝鮮に4万余のアメリカ軍を恒常的に駐屯させており、南朝鮮軍隊の統帥権を掌握しています。南朝鮮に駐屯しているアメリカ軍と南朝鮮軍隊を「韓米連合軍」と称していますが、その司令官はアメリカ人です。軍隊の統帥権を他人に奪われた国は、独立国家とはいえません。南朝鮮に「大統領」がいるとはいうもの

の、その首を意のままにすげかえる実権者もやはりアメリカ人です。歴史的事実が示しているように、アメリカ人はかいらい政権の「大統領」が気に入らなければ引きずりおろすか暗殺するかし、他の者をその座につけることができます。

アメリカの対朝鮮政策で基本をなすのは、「二つの朝鮮」をつくりあげて南朝鮮を永久に植民地として掌握することです。アメリカはアジアと世界制覇のための軍事的要衝として、南朝鮮を切実に必要としています。数年前、日本の政治理論雑誌『世界』編集長との談話でも話したことですが、アメリカ人は南朝鮮を脂身のように思い食いついて離そうとしません。そのため、朝鮮の統一問題がむずかしいのです。

日本もわが国の統一を妨げるあなどりがたい勢力です。日本はいま経済大国と称していますが、やがては軍事大国、政治大国になることを望んでいます。日本軍国主義者は「1000カイリシーレーン防衛」論を唱えて、海軍をはじめ「自衛隊」の兵力を増強しています。かれらの主張する「1000カイリシーレーン防衛」なるものは、日本から1000カイリまでの西太平洋の広大な海上と空中を日本が防衛するというものですが、これは本質においてシンガポールまでのアジア、太平洋領域をかれらの勢力圏内に入れようとするものです。日本は再びアジアの盟主となってかつての「大東亜共栄圏」の夢を実現しようと策しています。アメリカは日本を経済大国に育てましたが、日本が今後軍事大国になれば「飼い犬に手をかまれる」ということわざどおりアメリカにはむかうかもしれません。

日本はアジアの盟主になろうという野望の実現において、朝鮮

の統一が障害になると考えています。日本の反動層は朝鮮が統一されるのを恐れています。わが国の北と南が統一されれば強大国になるでしょう。北と南の経済を統合すれば大きな威力をもつようになり、人口にしても7000万に達するでしょう。そのため日本の反動層は朝鮮の統一を望みません。かれらはわが国の軍事境界線を「反共防波堤」と称し、それが崩れてはいけないと公言しています。将来アメリカが南朝鮮から手を引けば、日本が再侵入しかねません。

日本の反動層が朝鮮への再侵略の野望をすてていない状況下で、アメリカとともに日本にたいする警戒心もひきつづき高めることが必要です。以前北南赤十字会談のとき、南朝鮮から来た代表が革命歌劇『血の海』を観覧したことがありますが、南朝鮮から来た一部の人は歌劇を観覧したあとで、過去の歴史をいまさらほじくりだす必要はないではないかといいました。革命歌劇『血の海』は、われわれが抗日革命闘争の時期につくって公演した演劇を、金正日（キムジョンイル）同志が指導して歌劇にしたものです。この歌劇は、搾取と抑圧のあるところには必ず抵抗があるという歴史の真理と、日本帝国主義の侵略と虐政に屈することなく立ち上がった朝鮮人民の自主的革命精神を示している作品です。すでに過ぎ去ったことだからといって、朝鮮人民が日本帝国主義の植民地支配で耐えがたい苦痛を味わった受難の歴史を忘れてはならないでしょう。

日本帝国主義は36年間もわが国を占領し、「内鮮一体」「同祖同根」といって、朝鮮人の姓氏まで日本式に改めさせ、朝鮮民族を日本民族に同化させようと策動しました。李光洙（リグァンス）や崔南善（チェナムソン）のような人も、朝鮮人と日本人は「同祖同根」だと宣伝しました。日

本反動層が朝鮮にたいする再侵略の野望をすてないかぎり、朝鮮民族は警戒心を緩めてはならないでしょう。

祖国の統一を妨げる勢力は民族内部にもあります。

このたび汎民族大会が開かれてりっぱな結実をもたらすまでの過程は順調なものではありませんでした。8月15日を契機に板門店で祖国統一のための汎民族大会を招集することについて、北と南、海外の広範な人民と愛国的人士は熱烈に支持しましたが、祖国の統一を望まない分裂主義者は大会を破綻させようと各方面にわたって策動しました。南朝鮮当局者は汎民族大会の招集期日が迫った7月20日に、8月15日の前後5日間を「民族大交流」期間にするという「特別発表」をし、「訪北申請者受付」だの、「名簿交換」だのと鳴り物入りで宣伝しました。かれらは6万名の「訪北申請者」を受け付けたとし、その名簿をわれわれに引き渡すといいました。わずか5日のあいだに板門店を通って6万名の人が北を訪れるというのもむずかしいことですが、南朝鮮当局者には「訪北申請者」を北へ送る意思もありませんでした。現実的に南朝鮮当局者は、汎民族大会に参加するため北に来ることを申請した南側代表を一人も送りませんでした。南朝鮮当局者は、われわれがすでに招請したことがあり、「民族大交流」期間に平壌訪問の意思を表明した白基琓（ペク キ ワン）先生の北上路も遮断しました。結局、南朝鮮当局者の「民族大交流」案は、なんとしてでも汎民族大会を破綻させ、北南間の自由往来と全面開放を要求する内外の世論を鎮静させる術策にすぎませんでした。

内外の分裂主義者の妨害策動によって、祖国統一の前途には少なからぬ障害と難関が横たわっています。しかし、わが国の統一

は必ず実現されるでしょう。

北と南、海外の同胞は自信をもってかたく団結し、祖国統一を促進する民族あげての闘争に決起しなければなりません。

祖国の統一を実現するためには、自主、平和統一、民族大団結の3大原則を堅持しなければなりません。

祖国統一の3大原則は、北と南が共同で合意し、内外に宣言した民族共同の統一綱領です。

わたしは、1972年に北南間の高位級政治会談に参加した南側の代表と会った席上で、統一問題解決の基礎となる根本原則を提示しました。わたしはかれに、祖国統一は、第一に、外部勢力に頼ったり外部勢力の干渉を受けることなく自主的に実現すべきであり、第二に、武力行使によらず平和的方法で実現すべきであり、第三に、思想と理念、体制の相違を超越して民族の大団結をはかる原則で実現すべきだと話しました。南側の代表は、この三つの原則を即座に受け入れました。

われわれはその後、南側と祖国統一の3大原則を合意し世界に宣言する問題を合議するため、わが方の代表をソウルに派遣しました。そのとき南朝鮮当局者は、わが方の代表に会った席で、われわれの示した祖国統一の3大原則に賛成するとはいいながらも、ただちに発表する問題は少々検討を要するといいました。おそらくかれは、アメリカ人と合議しようとしたようです。結局、北と南はわれわれが示した祖国統一の3大原則を正式に合意し、7月4日にはついに祖国統一の3大原則を基本内容とする南北共同声明を世界に発表しました。

7・4南北共同声明が発表されたのち、南朝鮮から幾人もの代表

が再びわれわれを訪ねてきました。わたしはかれらと会って話し合ったとき、北と南が対決するのではなく、団結し合作すべきだと話しました。わたしはかれらに、いま南朝鮮で「セマウル運動」を進めているそうだが、農民の生活問題を実質的に解決すべきであって、日本からプラスチック・プレートを輸入してわらぶき屋根をふきかえるからと「セマウル運動」になるわけではない、農民によい暮らしをさせるためには灌漑工事をして農業実績をあげるべきだ、われわれには灌漑建設の経験が豊富であるから技術と資材を提供し、そちらからは労働力を出して南朝鮮で灌漑工事をしようといいました。わたしはまた、漁獲でも合作しよう、新浦沖は北からの寒流と南からの暖流の合流水域なので魚類が豊富だ、南朝鮮の漁民がこちらの漁場へ来て自由に漁獲ができるようにしようといいました。わたしは鉱山も共同で開発しようといいました。わたしはかれらに、共和国北半部には地下資源がたくさんある、あなたがたは、遠い外国から鉄鉱石を輸入しようとせず、北半部に来て鉄鉱石を採掘するようにといいました。かれらは北と南が合作するというわれわれの提案を聞いて望ましい提案だとし、帰って報告すれば「大統領」も歓迎するだろうといいました。しかし、かれらは南朝鮮に帰っては、北は労働力が不足しているので南朝鮮の人を引き入れようとしているだの、かれらを連れていって「赤化」しようとしているなどと、でたらめなことをいいました。

自主、平和統一、民族大団結の3大原則は、朝鮮民族の念願と意思にそって祖国の統一を実現するもっとも正当な綱領です。

外部勢力の干渉を受けることなくわれわれ朝鮮人が主人となっ

て祖国を統一しよう、民族同士でたたかわず平和的に祖国を統一しよう、共産主義者であれ民族主義者であれ宗教者であれ、区別せず全民族が団結して祖国を統一しよう、ということには誰も反対できません。われわれの示した祖国統一の3大原則はこんにちもかわることなく、祖国統一運動の指針、民族共同の統一綱領となっています。

朝鮮民族は必ず、自主、平和統一、民族大団結の3大原則にもとづいて統一を実現しなければなりません。

われわれは祖国統一問題の解決で、外国の方式をまねようとしてはなりません。なにごとであれ、他人のやり方をそのままねてはことを仕損じます。

われわれは革命闘争と建設事業を指導する全過程で、つねに主体性を確立し、すべてのことをわれわれの方式でおこないました。

わたしがよく話すことですが、解放後、新しい社会の建設で最大の難題となったのは民族技術幹部の不足でした。日本帝国主義植民地支配の時期に、朝鮮人は技術を学ぶにも学ぶことができませんでした。当時、北朝鮮には大学が一つもなかったし、日本人は朝鮮人に技術を教えませんでした。機関車などにしても、日本人が運転し、朝鮮人にはかまたきしかさせませんでした。日本帝国主義支配の後遺症として、解放後わが国には技術系の大学を出た人がわずか10名余りしかならず、機関車の運転ができる人も数人しかいませんでした。

インテリ問題を正しく解決するかいなかは、新しい社会を成功裏に建設できるかどうかというきわめて深刻な問題として提起されました。もちろん、朝鮮革命の基本原動力は労働者階級と農民

です。しかし、労働者階級と農民だけでは革命と建設を成功裏に進めることができません。革命闘争と建設事業において、インテリは労働者、農民に劣らず重要な役割を果たします。そのためわれわれは党を創立するとき、労働者、農民とともにインテリを朝鮮革命の原動力として位置づけました。わが党のマークにはハンマーと鎌と筆が描かれていますが、これはわが党を構成している労働者、農民、勤労インテリを象徴しています。

われわれがインテリを革命の原動力とすることについて反対する人もいましたが、われわれは誰がなんといおうとわれわれの方式でやることを決心し、インテリ問題を解決する積極的な対策を立てました。われわれは各地にちらばっていたインテリを集めるようはからいました。そのとき、南朝鮮からも少なからぬインテリがわれわれを訪ねてきました。かれらは、李承晩（リスンマン）はアメリカの手先になっているが、金日成（キムイルソン）将軍は国を解放し自主的に新しい社会を建設している、国を愛する人はみな金日成将軍のいるところに行くべきだ、といって、われわれを訪ねてきました。そのとき、南朝鮮からは学者だけでなく、芸術家も多くやってきました。われわれは全国各地から集まってきたインテリを中心にして平壌に専門学校を設け、金日成総合大学も創設しました。われわれはまた、鉄道運輸部門で金会日（キムフェイル）運動を起こして鉄道輸送を発展させる一方、多くの機関士を育てました。

われわれは事実上ゼロから出発しましたが、現在ではわれわれ自身が養成した約150万のインテリ大集団をもつようになりました。かれらはいま40代、50代、60代の働き手として、社会主義建設のために昼夜をわかたず馬力を出して働いています。われわれはこ

のようなインテリ大集団をもっているので、決心さえすればなんでもできます。150万のインテリ大集団をもっているのは朝鮮人民のもっとも大きな財産であり、大きな誇りです。こんにちの現実は、インテリ問題をわれわれの方式で解決してきたわが党の政策がきわめて正当であることを明白に実証しています。

われわれは民主主義革命と社会主義革命もわれわれの方式でおこない、社会主義建設もわれわれの方式で進めています。われわれが革命と建設をわれわれの方式でするからと、外国の経験を参酌しないのでないのはもちろんです。外国のりっぱな経験は取り入れましたが、それを機械的に取り入れはしませんでした。わたしはつねづね幹部たちに、外国の経験も学ぶべきだが、それがわが国の実情と革命の利益に合致するかどうかを十分に検討すべきだ、他人のものは噛んでみて口に合えば飲み下し、合わなければ吐き出すべきだと話しています。われわれの幹部はこのような自主的な革命精神で教育されたので、なにをするにしても他人に依存したり頭からまねるのではなく、自分の力を信じわが国の具体的実情に即して創造的に働いています。

祖国統一問題を朝鮮民族の要求とわが国の実情に合わせてわれわれの方式で解決する道は、まさに自主、平和統一、民族大団結の3大原則にもとづいて高麗（コリョ）民主連邦共和国を創立することだと思います。

いま南朝鮮では、「全民連」と「全大協」をはじめ、進歩的な団体と広範な人民が自主、民主、祖国統一のスローガンをかかげてたたかっていますが、このスローガンはきわめて正当なものです。自主は南朝鮮にたいするアメリカの支配を終わらせ、南朝鮮

社会を自主化するということであり、民主は軍事ファッショ独裁に反対し、南朝鮮社会を民主化するということであり、祖国統一は北半部の共産主義者と連合して平和的に祖国を統一しようということです。北と南は互いに食ったり食われたりしてはならず、また民族同士で内乱を引き起こす必要もありません。祖国を平和的に統一するためには、北と南が連合する道以外に他の方途はありません。

われわれの連邦制統一方案は南朝鮮人民も支持し、海外同胞も支持しています。

昨年、南朝鮮の民主人士文益煥（ムンイクファン）牧師が平壌に来たとき、わたしはかれとの話し合いでわれわれの高麗民主連邦共和国創立方案について説明しました。わたしはかれに、現在北には社会主義制度が存在し、南には資本主義制度が存在しているが、われわれは南朝鮮に社会主義制度を強要しない、われわれの高麗民主連邦共和国創立方案は北と南に存在する二つの制度を共存の原則で存続させ、北と南が同等に参加する最高民族連邦会議とその常任機構である連邦常設委員会を設け、そのもとで北と南の地域自治制を実施することを予見している、統一国家の首班は大統領か主席、または議長とし、北と南がそれぞれ1年ずつの輪番制にすることができる、連邦国家は他の国の衛星国にならず、中立国として自主的に進むべきだと話しました。文益煥牧師はわたしの話を聞いて、連邦制統一方案は非常にりっぱな統一方案だといいました。わたしと文益煥牧師のあいだでは祖国統一問題についての見解が一致したので、長い談話をする必要がありませんでした。

文益煥牧師が帰るとき、わたしは宿所を訪ね、いま南朝鮮当局

者はあなたを逮捕するといっているが、帰っても大丈夫だろうかと聞きました。かれは、おそらく数か月は獄につながれることになるだろうといいました。南朝鮮当局者は文益煥牧師が帰るやいなや空港で逮捕、拘禁し、7年間の懲役刑を言い渡しました。70を越した高齢者に7年間の懲役刑を科したのは結局、獄中で死に絶えろというにひとしいものです。文益煥牧師にそのような過酷な刑を科したのをみても、南朝鮮当局者は残忍きわまりないやからです。

われわれは、南朝鮮にわれわれの思想と体制を強要しようとはしません。ある一方の思想と体制を他方に強要しては、北と南を統一することができません。もしわれわれが南朝鮮にわれわれの思想と体制を強要するならば、民族の和合と統一を実現することができないばかりか、かえって祖国統一を妨げる勢力が多くなるでしょう。現在南朝鮮には、アメリカと日本、フランス、西ドイツ、カナダなど多くの外国資本が導入されています。われわれが南朝鮮に社会主義制度を樹立しようとするなら、南朝鮮に資本を投資した資本家がわれわれに反対するはずであり、また南朝鮮の民族資本家もわれわれに反対するでしょう。

連邦制形式の統一国家は中立国になるべきです。地理的にみて、わが国はソ連、中国、日本など大きな国のあいだに位置しています。ソ連と中国は社会主義国であり、日本は資本主義国です。相異なる思想と体制の北と南の両地域を一つに統一する状況のもとで、連邦国家は社会主義国であるソ連や中国の衛星国になってもならず、資本主義国である日本やアメリカの衛星国になってもなりません。連邦国家は中立国となって自主的な発展をとげなけれ

ばなりません。

統一された連邦国家が中立国になるべきだということについては、外国人も支持しています。元オーストリア首相のクライスキーが数年前に訪朝しましたが、かれはわたしに、統一された朝鮮が中立国になることには全的に賛成だといいました。かれは自国を中立国にしたときの経験を語り、中立国にするのは容易なことでないといいました。そして、レーガンがアメリカ大統領のポストについているかぎり朝鮮が統一されて中立国になるのはむずかしいと思う、今後柔軟な政策を実施できる人がアメリカ大統領に当選すれば情勢が多少変わるだろうといいました。それでわたしは、今後誰がアメリカ大統領になろうと、われわれは自分の力で祖国を統一し、中立国にするつもりだと話しました。

わが国が統一後、中立国になることについて、ソ連と中国は賛成するでしょう。日本も内心はどうであれ、公然とは反対できないでしょう。うまくすればアメリカも賛成するようにさせることができると思います。このたび汎民族大会に参加した在米同胞が帰ったらアメリカ人に、われわれが南朝鮮を決して共産化しようとしないし、南朝鮮に投資したアメリカ資本を侵害せず、連邦国家を創立して中立化しようとしていることを正しく認識させるのがよいと思います。

高麗民主連邦共和国を創立して祖国の統一を実現するためには、分裂主義者の「二つの朝鮮」策動を阻止、破綻させなければなりません。

いま南朝鮮の一部の人は、1国には一つの体制しかありえないとし、一方の体制を他方に延長する方法で統一するという「体制統

一論」を主張しています。これはわが国の実情では現実性がありません。われわれは、共和国北半部に樹立した社会主義制度を誰にも譲歩する考えはありません。「体制統一論」は本質において、国の分断を恒久化して「二つの朝鮮」にすることです。

われわれは祖国統一運動において、内外の分裂主義者の「二つの朝鮮」策動に反対してたたかうことを最優先的な課題としなければなりません。もしわれわれが「二つの朝鮮」をつくりあげようとする分裂主義者の策動を許すなら、民族の分裂を固定化させ、南朝鮮を永久にアメリカの植民地にゆだねる結果をまねくでしょう。そうなれば、われわれは歴史にたいし罪を犯すことになります。われわれはこれからも、「朝鮮は一つだ」というスローガンを高くかかげて進むべきです。

祖国統一偉業を実現するには、民族あげての広範な統一戦線を結成し、かたく団結してたたかわなければなりません。

祖国の統一は全民族の宿望と要求を実現する民族あげての偉業であり、統一運動の主体は全朝鮮民族です。祖国を統一するためには、北に住もうと南に住もうと海外に住もうと全同胞が統一運動に決起すべきであり、思想と理念、政見と信教の違いにかかわりなく各階層の全同胞が民族大団結の原則でかたく結束しなければなりません。階級や階層の要求と利益より、当然、民族共同の要求と利益を上位におくべきであり、祖国統一偉業にすべてを服従させなければなりません。

われわれは国土が分断された当初から、全民族の力を合わせて祖国を統一しようと主張してきました。解放直後、われわれとは思想と政見の異なる数多くの南朝鮮の人士が、われわれの呼びか

けに呼応して民族の団結と祖国統一のためにりっぱにたたかいました。呂運亨（リョウンヒョン）先生はわれわれと手をとりあって祖国統一のためにたたかい、敵に暗殺されました。かれは数回にわたってわれわれを訪ねてきましたが、あるとき自分の子どもを将軍に送るからよく面倒をみてほしいといいました。われわれは呂運亨先生との信義を守って子どもを預かり、二人の娘は外国へ留学もさせました。

われわれは解放後、新しい民主朝鮮の建設も愛国的民主勢力を結集し、全人民の団結した力で進めました。解放直後、わたしは平壌歓迎市民大会での演説で、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で建国事業に貢献すべきであり、祖国を愛し、民族を愛し、民主を愛する全民族がかたく団結して民主主義自主独立国家を建設しようとアピールしました。そのときの演説は凱旋門のそばの碑に刻まれていますが、みなさんが見るのも悪くないと思います。

われわれは祖国統一を願う各階層のすべての人と団結する考えです。祖国の統一を支持する人であれば、南朝鮮の資本家とも団結しようと思います。われわれは民族の利益に背いた親米派と親日派、そして外部勢力と結託して祖国の統一を妨げる買弁資本家に反対するのであって、民族資本家には反対しません。

自主と統一を望む朝鮮人であるなら誰であれ民族大団結の旗のもとに団結すべきであり、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で祖国統一偉業に貢献すべきです。

わたしはここに列席した代表のみなさんが、今後、民族大団結の旗、祖国統一の旗をさらに高くかかげて献身的にたたかい、誰もが朝鮮の真の愛国者、祖国統一の闘士になるよう望みます。

海外の朝鮮同胞が祖国統一偉業に寄与するためには、祖国についてよく知り、祖国と民族にたいする誇りと自負をいだくことが必要です。

海外同胞のなかには、長いあいだ外国に住んだため朝鮮語をよく知らない人もありえますが、たとえ言葉は知らなくても朝鮮人の魂を失ってはならず、決して祖国を忘れてはなりません。

祖国の人民はこれまでわが党の指導のもとに、自力更生の革命精神をもって刻苦奮闘し、朝鮮式の社会主義社会をりっぱに建設しました。チュチェ思想が具現されたわが国では、人民大衆が国家と社会の真の主人となっており、社会のあらゆるものが人民大衆に奉仕しています。わが国では全人民が党のまわりに一心同体となってかたく団結しており、すべての人が食・衣・住の心配を知らず、貧富の差もなくひとしく幸せな生活を営んでいます。人民は文化の創造者、享受者として自分の知恵と才能を十分に発揮しており、豊かな文化・情操生活を存分に享受しています。

わたしはこの8月15日に幼稚園の子どもらの芸術総合公演を見て、それをみなさんに観覧させるようにといいました。公演に出演した園児たちはみな労働者、農民の子どもですが、かれらの芸術的技量は相当なものです。西ドイツの女流作家ルイズ・リンザと一緒に公演を見ながらも話したことですが、子どもたちの芸術的才能がこのように開花するのは社会主義制度でのみ可能です。資本主義社会ではそうできません。資本主義社会では、金持ちの子どもは芸術を学ぼうと一所懸命に努力しないだろうし、貧しい家庭の子どもは芸術を学ぶにも学ぶことができないでしょう。しかし社会主義制度では、すべての子どもが自分の才能を十分に伸ばせ

る道が広く開かれています。わが国では、子どものためなら何一つ惜しみません。園児たちの芸術総合公演に出演した四つ子の場合にしても、国家ではその子らをりっぱに育てるために2階建ての独立家屋を建てて提供し、担当の教養員と医師をつけて面倒をみています。

朝鮮人民は実際の生活体験を通じて、朝鮮式社会主義が資本主義とは比べられないほどすぐれていることを深く感じています。

資本主義世界ではアメリカが発達しているといいますが、アメリカは貧富の差、社会的不平等がひどく、社会悪がはびこる腐りきった国です。アメリカでは富者は豪奢な生活をしている反面、飢えている人が多く、住宅がなくて街をさまよう人もたくさんいます。殺人、強盗、麻薬常習者、アルコール中毒者がいちばん多い国もほかならぬアメリカです。エイズがいちばんまんえんしている国もアメリカです。アメリカ式民主主義は人民大衆のための民主主義ではなく、少数特権層のための民主主義です。この席にはアメリカから来た同胞もいますが、アメリカの現実についてはわれわれよりみなさんのほうがよく知っているはずです。アメリカに幻想をいだき、アメリカ式民主主義を模倣するのは愚かなことです。

最近、一部の社会主義国で不測の事態が起こるや、アメリカ帝国主義者は国際舞台でいっそうおごりたかぶり、傲慢無礼な行動をしています。かれらは国際憲兵として、世界を牛耳ろうとしています。

いまアメリカをはじめ帝国主義者は、わが国でも他の国でのような自由化の風が吹き動乱が起こることを望んでいますが、わが

国ではそんなことはないでしょう。

チュチェの社会主義祖国は堅固です。わが国は、領袖、党、大衆が一心団結しているので、いかなる風が吹き荒れてもびくともしません。朝鮮人民は自分の力で朝鮮式の社会主義を建設したことに高い誇りをいだいており、チュチェの社会主義祖国をあくまで守りぬく決意をかためています。

わたしはみなさんも、チュチェの社会主義祖国を守るために、祖国の自主的平和統一を促進するために積極的に努力するものと信じます。